The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	私の健康法
Author(s)	田代, 一雄
Citation	makoto. 1987, 59, p. 12-12
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86002
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

私の健康法

大阪府泉佐野保健所

所長　田代一雄

私の健康法という下題を賜わり紙面を喰うことになりまして、ご同様、大気をはじめ身体髪膚これを受けたる祖霊の運までも唸喰している自分の健康哲学は外に発表できる何もなく、私なりの勝手をおゆるし頂き「私の外（そと）の健康」という風に書くと些か格好もつき易く以後おつきあい下さい。とはいいましても自分の体調、心調は何の頓着もなく生きられそうなド健康では決してなく、幼時以来また、妹を疫痢に奪われたり身内も腸疾患が多いことなど、フィジシャンになったのも自然のなりゆきであったようですが、自他の健康状態を他覚的に観ることは当然習慣的なものであり視る、聴く、触わる、も、甜めるが如く聞こえざるが如く、知られざるうちに、といった達人でもないのですが、乳鉢を摺る段には心躍り、その効きめを確かめ得た時の喜びは何にも替え難いこと医人の斉しく味わうところでありますが、公衆衛生となると健康のヒビキがあっさりとは参らず、例えば大湖の中で浮き滓を掬いとることもさり乍ら、泡になってるときには全体で泡立たない平衡を保てるようソフトな手立てをすることに考えられるわけです。残渣の部分や滓の処理は医療や防疫の分野がハイテク化して広域化して参りましたが同様、流体（社会結合体）の健全性へも大量化とハイクオリティ化のアクションが迫られ対応するハイジェニクエンジニアリングも大変であり地域医療とかプロジュサー（行政的）へのアクセスを求める傾向は様相の大規模化こそ違え物量を伴う第二の戦後では、云い方を変えれば健康事業のデパートメント化を示しているようにも気になるものの、この際専門化分担化した衛生人は衛生家（ケアフルライバー）の感性を外に向け力を結集、ダグアウトでは声をかけ合い目立たぬファインプレーの積み上げで連携する。来日したホーマーだけでないホーナーの力走キヌガサの不断の努力などユニスコープに躍るスタンドの姿、これぞさわやか。

府政だより

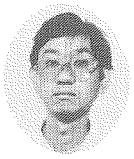
大阪府衛生部では次の主な行事が行われる予定です。

○食中毒予防月間
　期間　7月中
○愛の血液助け合い運動月間
　期間　7月中
○覚せい剤等薬物乱用防止
　広報強化月間
　期間　7月中
○救急の日
　9月9日
○救急医療週間
　救急の日を含む一週間
○飼い犬の管理に関する条例強調月間
　期間　9月中
○結核予防週間
　期間　9月24日～30日

創立40周年記念永年勤続表彰

当協会創立40周年記念に当り、5月15日、永年事業に精励されたつぎの各氏が理事長より表彰されました。

25年
第二事業部　大西敏夫



20年
第二事業部　西　登志典

15年
第一事業部　着本秀一
第二事業部　橋本文子

10年
第一事業部　澤田重樹
〃　相良武彦

10年
第一事業部　植野晴道
第二事業部　西岡幸子
第三事業部　横井道春
〃　矢部梅野